

NPO 法人岡崎がくどうの会

放課後児童支援員都道府県認定資格研修レポート

科目①『放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容』

科目②『放課後児童健全育成事業の一般原則と権利擁護』

科目③『子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ』

科目④『子どもの発達理解』

科目⑤『児童期（6歳～12歳）の生活と発達』

科目⑥『障害のある子どもの理解』

科目⑦『特に配慮を必要とする子どもの理解』

科目⑧『放課後児童クラブに通う子どもの育成支援』

科目⑨『子どもの遊びの理解と支援』

科目⑩『障害のある子どもの育成支援』

科目⑪『保護者との連携・協力と相談支援』

科目⑫『学校・地域との連携』

科目⑬『子どもの生活面における対応』

科目⑭『安全対策・緊急時対応』

科目⑮『放課後児童支援員の仕事内容』

科目⑯『放課後児童クラブの運営管理と運営主体の法令の遵守』

【クラブ】（ なかよしクラブ ） 【名前】（ 原口 眸 ）

全 16 回の講義で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

今回の研修を受けて、今までの研修で教わっていた内容より、より基本的なことから専門的な事までたくさん学ぶことができました。

特に心に残ったのは第 9 科目 子どもの遊びの理解と支援です。

子どもの遊びとは、遊ぶことによって身体的精神的な発達に重要な役割を果たしていると知りました。実際に公園に行った際、ドッチボールをやりたいと思った子が「ドッチボールやる子ー。」と声をかけて、集まった子たちで話し合い、チーム分けをどの様にするかを考え、コートを描き、誰がどの位置に行くかを決めて遊び出します。時々揉め事になることを目にしますが、そんな時もどの様にしたらいいかを考えてまた遊び出す、という保育場面が浮かんできました。

学童は 1 年生から 6 年生までの異年齢の子がいます。研修の中で、年齢による遊びの性質の差について学び、数々驚くことができました。低学年、中学年、高学年での発達段階によってやれる事、考えて言うことを理解することにより、一緒に遊ぶ時は子ども同士の関係を見守りつつ、育成支援を意識していこうと思います。

そして、今の子どもたちは自分の感情表現が出来る子と苦手な子を目にするので、一緒に遊びを通じて、人との関わりや遊びの知識、技術を伝えながら、成長ができる様にその子に合った支援をしていきたいと思っています。